

文教委員会陳情審査報告書

20第115号 東京都立大泉高等学校敷地内の樹木保護等に関する陳情
(平成20年12月17日付託)

陳情者

大泉高校の桜並木を守る会
代表 関 馨 外3, 749人

本委員会は、上記陳情審査の結果、下記のとおり決定したので報告します。

平成21年 2月16日

文教委員長
大 山 とも子

東京都議会議長
比留間 敏 夫 殿

記

- ◎ 意見を付して採択の上執行機関に送付し、その処理の経過及び結果の報告を請求すべき分
第1項

(意 見)

趣旨にそうよう努力されたい。

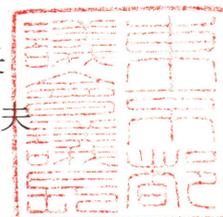


平成21年 3月27日

大泉高校の桜並木を守る会

代表 関 馨 様

東京都議会 議長
比留間 敏 夫



陳情 審査の結果について（通知）

あなたの提出されました 陳情 は、下記のとおり決定したのでお知らせします。

記

1 対象となる 陳情

(1) 受理年月日

平成20年12月15日

(2) 番号及び件名

20第115号

東京都立大泉高等学校敷地内の樹木保護等に関する陳情

2 決定年月日

平成21年 3月27日

3 決定結果

別紙の委員会 陳情 審査報告書のとおり

件名	東京都立大泉高等学校敷地内の樹木保護等に関する陳情		
番号 付託委員会	20第115号 文教委員会付託		
受理年月日	平成20年12月15日	郵便番号	
住所・氏名	大泉高校の桜並木を守る会 代表 関 馨 外3, 749人		
<p>(願 意)</p> <p>都において、次のことを実現していただきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 練馬地区中高一貫6年制学校開設工事について、早急に、地域住民及び学校関係者等を対象とする説明会を開催すること。意見付採択 2 都立大泉高等学校敷地内の樹木を、現況のまま保存すること。審議未了 3 練馬地区中高一貫6年制学校の施設は、極力、現在の都立大泉高等学校の施設を活用すること。審議未了 <p>(理 由)</p> <p>都立大泉高校敷地内に開設される練馬地区中高一貫6年制学校の「基本計画」の中で、従来は、「改修、修理」といわれている校舎について、平成20年9月に「全面改築」という方針が校長から保護者に提示された。それも、現在のグラウンド内に、すべて新築するということである。同年7月にはプロポーザルが公募され、10月には既に設計事務所が決定し、測量も基本設計も始まっていることが報道されている。卒業生が同窓会総会において、工事内容について学校に説明を求めたが、その場では回答がなかった。その後、同窓会に対しては平成21年1月以降に説明するという回答があったが、開催時期及び説明会の運営形式、参加者の範囲については明確ではない。現在、近隣住民、保護者、卒業生等の関係者は、今後の計画について強い懸念を抱いている。基本設計完了前に説明会を開催すべきである。</p> <p>練馬区東大泉五丁目3-1の都立大泉高校は、東京都の北西、練馬区の、武蔵野の面影が残る地に位置している。緑の多い練馬区でも宅地化の進む中、構内には多くの樹木を擁し、近くの石神井公園、牧野植物園等とともに、緑の環境を残し、周囲に提供している。</p> <p>ことに、校門から玄関にかけてのアプローチとグラウンド周囲を囲むように植えられ</p>			

※ 上記「意見付採択」とは、「趣旨にそうよう努力されたい」

との意見を付して採択されたものです。

(参考) 審議未了になった部分については、今後継続して審議されません。

た桜の大樹は、都立大泉高校の前身である大泉中学校の第一期の先輩が、学校設立に当たって一人一本ずつ手植えにしたもので、その後の保持、保全にも、同窓会は寄付等を通じて協力してきた。戦時を越え、戦後の長い年月を慈しまれてきた桜は、いわば、武蔵野の面影をほうふつとさせ、自主創造の理想をうたう校歌とともに、都立大泉高校の伝統そのものであると言える。

校門から玄関までのアプローチの桜を含む並木については、都から残すという回答を得ているが、アプローチ以外にも、グラウンド周囲、校舎周囲には樹齢50年に及ぶ大樹を始め多くの樹木がある。これらの樹木が、今後保存されるのか懸念される。

「緑の東京10年プロジェクト」には、公立小・中学校の校庭の芝生化が掲げられているが、現在ある学校の緑、樹木は、それ自体、周辺に住むものにとっても、また、東京都にとっても、貴重なものと思われる。都立大泉高校の桜咲くアプローチは、かつて練馬百景にも選ばれ、在校生、卒業生のみでなく、多くの人々を楽しませてきた。

近年、練馬区大泉地区は、桜の保持、保護に力を入れている。樹木の保全は時代の潮流であり、中高一貫6年制学校の生徒にとっても、周囲の住民にとっても、大樹とともに暮らす環境は非常に望ましいものとする。樹木は健康に良いだけでなく、心を落ち着かせ、情操を養い、思索を深め、自然への愛情を育てる。これからの教育にふさわしい環境を用意するだろう。中高一貫6年制学校開設準備室もうたっているとおり、都立大泉高校の歴史、伝統を踏まえてこそ新しい学校の発展があり、新時代を開く力にもなると思う。都は、校内の桜を始めとする多種多様な樹木を保全し、貴重な緑の環境を残すべきである。

「練馬地区中高一貫6年制学校基本計画検討委員会報告書」には、「練馬地区中高一貫6年制学校への改編に伴う施設整備については、現行の大泉高等学校を利用することを基本」とするという「施設整備方針」が示されている。また、景観維持の観点、環境負荷軽減の観点からも、現在の都立大泉高校の施設を、練馬地区中高一貫6年制学校においても極力活用すべきである。